

うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第 25 号

2019 年 12 月 7 日発行

会長 山路 安清

事務局

〒112-0002

東京都文京区小石川 5-26-10-101

伊藤須美子

電話 090-9834-7808



子育てするノグチゲラ（沖縄県鳥）

沖縄語を話す会は、沖縄本島の伝統的な言葉を知るための勉強会です。
沖縄語の歌の理解にも役立ちます。月に2回、東京品川の大崎で行います。
入会はいつでもできます。照会は上記の事務局へ。

- がじゃん はなし
蚊 ぬ 話 ----- 笹本美恵 2 頁
- またうちなー
又 沖 縄 ん かい 行き わ ぞ や る ----- 小林雅代 2 頁
- が じ ま る 木 綱 引 ----- 山路安清 4 頁
- イラスト ----- 小林雅代 (表紙)
- 事務局から ----- 5 頁

ホームページ
沖縄語教育支援文庫

<http://www.wvq.jp/p/>
<http://www.wvq.jp/>

がじゃん はなし
蚊 ぬ 話

笹本美恵（東京都小金井市）

昔、ある琉球ぬっ人が唐ぬ国んかい
行ちゃびたん。見一なり聞ちなりっし、
珍さる物びけ一んやいび一たん。くぬ
っ人一唐ぬ国をて用事済まち、琉球
んかい帰ゆる如さびたん。

明日一船ぬ出じゆんでる日ぬあこ一
くろ一成て、珍し一歌ぬ聞かりやびた
ん。今まで一回ん聴ちやるくどぬ無一
ん、多くぬっ人ぬ達ぬ歌声やいび一
たん。唐ぬ国ぬっ人んかい問て見ちゃ
くと、うれ一蚊ぬ歌やんで言びたん。
あんし、くぬっ人一箱ぬ中んかい蚊
多く入って、珍し一苞やんで言ち、一
杯喜で船んかい乗やびたん。船ぬ海歩
ちよ一る時ん、ば一くる耳箱んかい付
きて、蚊ぬ歌胸一人っし聴ちやがな
一、喜ど一いび一たん。

あとぬうじゆめ一、船一那覇ぬ港ん
かい着ちゃびたん。くぬっ人一、蚊ぬ
入っちゃ一る歌箱大切に抱ち、垣花ぬ
南ぬ山ぬ下ぬふら登て行ちゃびたん。
ふらぬ道中をて憩て、蚊ぬ歌聴ち欲
さんで思て、道端ぬ草ぬ上んかいびや
びたん。あんし大切に抱ちよ一たる箱
んかい耳当てやびたん。やいび一しが
がじゃん 蚊ぬ歌一むさつと聴かりやびらん。
箱静かに左 右んかい振て見じゃび
たしが音一聴かりやびらん。あきさみよ
一んで言ち、箱上下 左 右んかい振
て見じゃびたしが、如何一しん何ん聴
ちゆる事一成いびらんたん。あんし、異

風に思て、箱するいと開きて見じゃび
たくと、中んかい入っちゃ一たる多
くぬ蚊ぬむるひんぎて無一やびらん。
うりから沖繩んかい蚊ぬ広まやびた
ん。垣花ぬくぬふら一、今ん「がじゃ
んびら」んで呼ど一いび一ん。
（話ぬ元成と一しえ一、仲井真元楷編
著「沖繩民話集（大和口）、社会思想社」
やいび一ん。）



またうちな一
又沖繩んかい行きわどやる

小林雅代（東京都千代田区）

「沖繩口習い欲さぬ、し一欲さぬ」
んで思たしえ一、うるま市ぬ百合が丘
保育園ぬ子ぬ達、うりから先生達ど
行会たしが始まいやいび一ん。子ぬ達
育て一る所んじ、あつ達ぬうじら一さ
るび一姿、清さる天、海、風、・・・。
「くまど子ぬ達育て一る所」沖繩
ぬうるま市ぬ子ぬ達ぬ目ぬ清らさし」
肝に染みやびたん。
何んで言ちん我んね一、子ぬ達育て
一る本當ぬ所をて沖繩ぬ童歌、三線、
踊んで一んかい初みて行会て、言葉つ

しえー^{じょーじ}上手ね一言ららんしが、^い肝ぬう^{ちむ}
らーきらりーんねーさびたん。

やいびーしが、^{じちえ}実ー^{うちなーぐち}沖繩^{わか}口ぬ解らん。
^{わらびうた}童歌ぬ^{ちむえー}肝合^{わか}ん解らん。皆さーに^{んな}物食^{むぬか}

むる場所ん「^{ふつちー}活計さびら」「^{ふつちー}活計さびた
ん」で^ゆ言る声聴^{くーち}ちやる時ねー、^{どち}何んで

ん言ららん、我んねー^い胴一人子ぬ^わ達と
いぬ^{ぐとくーん}如声出^{うむ}じゃしゆー^{ちむ}さんで思^{ちむ}て、肝

しからー^なしく成いびたん。「くれー^{うちなー}沖繩
ぐち^{くち}口どやるい」んで。「あきさみよー」「^{あつ}歩

ちゆん」「^{なーか}かちゃーしー」「^{ぐと}さばに」・・・
ちぶるぬ中ー^{くど}くん如ー^{くどば}る言葉さーに

まんちゃー^なふんちゃー成いびたん。
^{とーちよー}東京んかい^{けー}帰いねー、^{うちなーぐちか}沖繩口使た

い聞ちやいする事ー^{とー}無ー^{とー}やびらん。東
ちよー^ち京んかいや「^いわたしたショップ」んで言ち、

^{うちなー}沖繩ぬ品^{しなあちか}扱とー^{まちや}る街屋ぬあて、^わ我んね
ーびーくるぬばがやびーん。あんし^{まちや}街屋

ぬっ^{ちゆ}人んかい^{どー}問^{んー}て見^{うちなー}じゃびたん。「沖繩
ぐち^{ぐち}口っし^{はなし}話ぬ^な成いびー^なみ？」んで。あん

さくど「^ち聞ちゆしえー^な成いびー^{はな}しが、話
すしえー^な成いびらん。」でぬ^{ふし}返事やいび

ーたん。我んねー^わすつゝー^わさびたん。
^{ちや}如何ー^{うむ}すが、んで思^{うむ}やがなー、わたした

ショップぬ^{すむちう}書物売とー^{どくる}る所^{うま}を^{うま}思
じふらー^みじ見ー^あ当^{うちなーぐち}てたしえー「沖繩口

さびら・^{おきなわご}沖繩語を^{はな}話^{ふなつ}しましよ 船津
^{よしあきちよ}好明著」やいびーたん。うり^あ開^{んー}きて見^{んー}じ

ーねー、^{んー}見^{くど}ちやる事ぬ^ね無^{じー}ん字、^{うちなーぐち}沖繩口
が^{たみ}書^{じー}ちゆる^{うほー}為ぬ^{なら}字ぬ多^{なら}く並どーいびー

くと、^{うどる}驚^{うーぐど}ちやびたん。くれー^{うーぐど}大事^{うーぐど}やっ
さー^{うどる}んで・・・。あんしくぬ^{すむち}書物さーに

^{びんちよー}勉強しー^{かな}ねー、^{うちなーぐち}必^{わか}じ沖繩口ぬ解^{わか}て、

^{はなし}話しー^{はじ}ゆー^{うむ}する^{うむ}筈んで^{うむ}思^{うむ}てど、^{うむ}ちゃー

^{こー}き買^{あー}やびたん。うぬ^{すむち}上に、^う書物ぬ^う終わ
いん^{すむち}かいや、「^ちくぬ^{ぬー}書物に付^{ぬー}てー、何

やてん^{どー}問^くて^{どー}呉^くみそー^くり。丁寧^{くーにー}に返事^{ふし}う
さぎ^くやびら。」んで^か書^かか^かつとー^かいびー^かく

ど、^{ふなつ}早々と^{ふなつ}船津^{ふなつ}先生んかい^{ふなつ}問^{ふなつ}て見^{ふなつ}じゃ
びたくど、「^{おきなわご}沖繩語^{はな}を^{かい}話^{かい}す会」んで^いしが

あしが^わ分^わか^わて、^{かい}くぬ^い会ん^いかい^い入^いつち^いやる
して^い次第^いやいびーん。

^わ我んねー^{うちなーぐち}沖繩口^{びんちよー}小^{びんちよー}てー^{びんちよー}んなー^{びんちよー}勉強
し、^{わか}解^{わか}て、^しうる^{ゆり}ま市^{おか}ぬ^{ほいくえん}百合^{おか}が^{ほいくえん}丘^{ほいくえん}保^{ほいくえん}育^{ほいくえん}園^{ほいくえん}ぬ

子ぬ^ふ達^{ちやー}ん^ふかい、^{じふ}是非^{またい}ど^{ちや}ん又^ぶ行^ぶ会^ぶい^ぶ欲^ぶさ
んで^{うむ}思^{うむ}とー^{うむ}いびーん。

^{とーちよー}東京んかい^を居^みいねー、^ち見^ちなり^ち聞^ちち
なり^{やまとぐち}やむる^{やまとぐち}大和^{やまとぐち}口^{やまとぐち}やいびー^{やまとぐち}くと、^{うちなー}沖繩

^{ぐち}口^{ぐち}聞^{ぐち}ち^{ぐち}ゆる^{ぐち}場所^ばー^ば無^ばー^ばや^ばび^ばらん^ばしが、
^{ちち}月に^{たけん}2回^{とーちよー}ぬ^{しながー}東京^{おーさき}品^{おきなわ}川^{おきなわ}区^{おきなわ}大^{おきなわ}崎^{おきなわ}ぬ

「^{おきなわ}沖繩^{おきなわ}語^{おきなわ}を^{おきなわ}話^{おきなわ}す^{おきなわ}会^{おきなわ}」^{おきなわ}を^{おきなわ}て^{おきなわ}勉強^{おきなわ}し、^{おきなわ}沖繩^{おきなわ}口^{おきなわ}ど^{おきなわ}我
っ^{おきなわ}達^{おきなわ}宝^{おきなわ}んで^{おきなわ}思^{おきなわ}て、^{おきなわ}う^{おきなわ}り^{おきなわ}持^{おきなわ}ち^{おきなわ}磨^{おきなわ}ち^{おきなわ}行^{おきなわ}け

ー^{おきなわ}や^{おきなわ}んで^{おきなわ}思^{おきなわ}とー^{おきなわ}い^{おきなわ}びー^{おきなわ}ん。や^{おきなわ}い^{おきなわ}びー^{おきなわ}し
が^{おきなわ}今^{おきなわ}ー「^{おきなわ}焦^{おきなわ}が^{おきなわ}ち^{おきなわ}ー^{おきなわ}ね^{おきなわ}ー、^{おきなわ}物^{おきなわ}病^{おきなわ}ん^{おきなわ}じ^{おきなわ}す^{おきなわ}ん」
で^{おきなわ}る^{おきなわ}場所^{おきなわ}ど^{おきなわ}や^{おきなわ}い^{おきなわ}び^{おきなわ}ー^{おきなわ}る。



がじまる木

綱引

山路安清(東京都品川区、那覇出身)

がじまる木

昔一、県庁から久茂地ぬあじま一
までぬ県道や、がじまる木ぬトンネル
やたん。大道んかい植一らつと一るが
じまるや、ふちゃ一ち、たんか一んかい
渡一で行かり一たぐと、童一ん達や猿ぬ
如木ぬ上んかいエンゴ一作一遊ど
一たん。あこ一くろ一成いね一、うぬ道
んかい蘭傘ぬ絵描ち、大人わちゃく
たん。黒一糸一っし五銭目括ち、木ぬ上
から垂らち、車一ぬ取らんちし一ね一、
うぬ五銭目引ち上ぎ一たん。うぬっ人
一くさみち、上見じゆしが、我一っ達や離
り一と一る木ぬ上かい隠一っきと一ぐと、
かちみららんたん。

がじまる木ぬ下んじ、車一ぬ憩と
一いね一、くしから箒ぬ棒入つて、木
ぬ上から「車借ら一」んち呼だん。車
一やま一から呼ど一が解らんしが、飛ん
発ちゆしが棒ぬ引一っ掛かて、動かんぐ
と、わじと一たん。

石っし木打ち一ね一、乳々ぬ如一る
汁ぬ出じ一ぐと、土んかいたっ一ち、
やんむち作一て、じ一じゃ一とかあ一け
一じゆ一取たん。あ一け一じゆ一や鳥ぬ
むんだにんかいそ一たん。



沖縄海洋博記念百円硬貨

綱引

沖縄んじえ一満作と家人衆ぬ頑一丈
願一て、村々をて一七月成いね一、綱引ぬ
あん。我んね一昭和15年軽便乗一て、与
那原ぬ綱引見じ一が行じゃん。うぬ綱
引一浜一んじすぐと、皆海水浴場一ん
かい集まと一たん。

東と入から綱かたみ一て、綱ぬ上かい
舞台ぬあ一て、あっかん・たんて一ぬ支度
っし、雌綱と雄綱かぬち棒一っし繫じ、
歌・三線・鼓・鐘鳴らち、二才達ぬ力
勝負ぬ始またん。

浜ぬ入口ね一街屋ぬ並一で、色々物
売と一たん。水飴、煎餅、玉那覇くる
一、パパヤ飴、黒飴、イチゴ飴、ラム
ネ、くんぺん、さ一た一あんだあぎ一、
あたや一お一、ピガ一、羊かん、今川焼、
てんぴぬめ一饅頭、ありくりあ一て、あ一
りきさたん。

うんなくんなっし、綱引ぬ終わ一て、家
かい帰らんち、駅まで行じやぐと、汽車
代ぬ足ら一ん成と一たん。仕方一無一
らん、那覇まで歩ち行ちゆる如んかい
さん。皆歩ちよ一たしが、段々居らん
成一て、胴一人成たしが、意地出じやち歩
ちやぐと、やが一て山道成たん。夜成い
ね一、ハブぬ出じ一て来ゆ一んで言らつと
一たぐと、走一え一そ一たん。

ゆけ一歩ちやぐと首里ぬ坂下んか
い出じたん。家かい帰たぐと、心配し駅
んかい迎一が行じよ一たん。嫌な童一
やいび一たん。

事務局から

記事別の語句の説明など

がじゃん はなし

蚊 ぬ 話

ちど

包 = みやげ。

ふに うみあつ ちど
船 ぬ 海 歩 っ ちよーる 時 = 航行中 (船が海を移動して
いる時)

ふいら = 坂。

またうちなー

又 沖 縄 ン かい 行 き わ ど や る

行 き わ ど や る = 行きたい気持ちを強調した表現。

しー 欲 さ ぬ = (沖縄語を) 使いたくて。

あし むぬや
焦 が ちー ねー 物 病 ん じ す ん = 焦ると気を病む、病気に
なる、急いては事をし損じる、という諺。

が じ ま る 木

くるま

車 = 車夫。当時の車は人力車。

ちなひち

綱 引

けーびん

軽 便 = 当時あった沖縄県営鉄道。

あっかん・たんてー = 悪漢探偵。悪漢と好漢。悪と善の
象徴。

編集について

今号は東京都小金井市在住の笹本美恵さんと、東京都千代田区在住の小林雅代さん、東京都品川区在住の山路安清さんのお三方から原稿を頂きました。

笹本さんには沖縄の民話を語って頂きました。笹本さんは当会で長い間沖縄語を勉強して上達しました。素材は仲井真元楷編著「沖縄民話集(共通語)、社会思想社」で、笹本さんは「がじゃんびら」の名の由来を沖縄語で面白く語っています。

小林さんには、うるま市の百合が丘保育園との縁、とりわけ子供たちとの触れ合いを通じて、沖縄の文化に魅かれ、沖縄の文化の根底は沖縄の伝統言語だと確信され、沖縄語に親しもうとする熱意を語っておられます。しかし「急いては事をし損じる」と締めくくり、沖縄語を一步一步着実に覚えていく決意を述べています。

山路さんには、子供の頃の思い出を2編頂きました。「がじまる木」は当時の子供の悪ふざけなど、腕白ぶりが懐かしく語られています。「綱引」では当時の祭りに行った思い出を、今も彷彿させる面白い話にまとめ、ご自身を「悪がきだった」と言っておられます。

原稿は勉強のため出来るだけ沖縄語で書いて頂きたいのですが、共通語でも構いません。共通語の原稿は事務局で沖縄語に書き換えさせて頂くこととしております。上手な沖縄語ではないかも知れませんが、原稿作成者が将来沖縄語に上達したときに、読み返して頂ければ一層よい勉強になると思います。

共通語から沖縄語への変換においては、出来るだけ伝統的な沖縄語を用いるようにしました。それが困難な場合は、そのまま外来語として取り入れました。

「新聞、電気」などの近代語で沖縄語で表しにくい語はそのまますました。

漢語や外来語は一般に、複数の沖縄語の単語をつなげて表現するよう努めました。そのため字数が増えることがあります。例えば船の「航行中」は「海歩ちよーる時」などとします。

この会報では、沖縄語の発音を正しく表記するのに便利な沖縄文字を採用して編集しております。沖縄文字に慣れるまでは、沖縄文字への変換は事務局で行います。以下、表記上の要点を述べます。

(漢字の用い方) 沖縄語の文体は漢字交じりの平仮名文とします。漢字にはすべて振り仮名を振ります。

漢字は沖縄語としての漢字とし、共通語への翻訳だけの便宜的な表示は避けます。共通語と意味と音便の関係がある漢字を用いることを原則とします。

例: × 琉 球 沖 縄
 やまど やまど ちら ちら
× 他 府 県 大 和 × 顔 面
 がってん がってん ちゅ ちゅ
× 同 意 合 点 × 美 ら さん 清 ら さん

(振り仮名の振り方) 個々の漢字の至近位置に振ることを原則とします。

例: × 志 情 し な さ き し な さ き
 たど くる た ど くる
× 二 所 二 所

ただし複数の漢字に対して特別の読み方をする場合は、その複数の漢字に対して振ります。

例: 年 寄 びん やまど おーみ
 保 栄 茂 大 和 近 江

振り仮名の読み音が語尾変化をする場合は、振り仮名の中で変化させます。

例: いぬ いん い
 犬 ン (犬も) × 犬 ン × 犬 ぬ ン
 ちも ち ちもー
 肝 ー (心は) × 肝 も ー × 肝
 しきぬ しき しき
 世 間 ン かい (世間に) × 世 間 ぬ ン かい

(長音の書き方) 長音の伸ばし部分は仮名によらず「ー」を用います。

例: × た あり い た ー り ー
 × さ あ た あ さ ー た ー

既にお知らせしてありますように、この会報は沖縄語に関心をお持ちの方なら、会員以外の方でも書くことができます。どうぞご遠慮なく原稿をお寄せ下さい。既に何人の方からも頂いた実績があります。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

また大変恐縮ですが、原稿料はお支払できませんので、会報をお届けしてお礼に代えさせて頂きます。

沖縄文字一覧と用例

ど[tu] 　どい(鳥) うど(音) みーど(夫婦)	ふら[hwe] 　ふー(南) にふーでーびる(有難うございます)
と[to] 　とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du] 　どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?jal]* 　やー(君、お前) やん(言わない)
ど[do] 　どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や['jal] 　やー(家) やん(である)
て[ti] 　てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ[?ju]* 　ゆん(言う)
て[te] 　てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ['ju] 　ゆんたく(おしゃべり)
て[di] 　ふて(筆) めーてー(喉) てきやー(秀才)	は[?jol]* 　はーいー(おさな子)
で[de] 　でーじ(大変なこと) ちょーでー(兄弟)	よ['jol] 　よーんなー(ゆっくり)
ふ[kwa] 　ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ[?wal]* 　あー(豚) あーちち(天気)
か[ka] 　かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ['wal] 　わーむん(私のもの)
ふ[gwa] 　にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ[?wi]* 　あー(上) あーりきさん(面白い)
が[ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	み['wi] 　みきが(男) みなぐ(女)
く[kwi] 　くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	系[?we]* 　系ーきー(金持ち) 系んちゆ(ねずみ)
き[ki] 　きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	系['we] 　うい系ー(お祝) わじゃ系ー(災い)
く[gwi] 　くーく(越来「地名」)	ん[?N]* 　んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ[gi] 　かーぎ(容ぼう)	ん['N] 　んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)
く[kwe] 　くー(鋏) からじくー(髪きり虫)	い['i]* 　いん(縁) いだ(枝)
け[ke] 　けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i] 　いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
く[gwe] 　くったい(ぬかるみ)	ち['u]* 　ちど(夫) ちーじ(さとうきび)
げ[ge] 　げー(害) にげー(願い)	う[?u] 　うど(音) うーび(帯)
ふ[hwa] 　ふー(葉) なーふ(那覇)	え['e]* 　えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha] 　はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e] 　えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ[hwi] 　ふじゃい(左) ふーど(いるか)	お[?o] 　おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	を['o] 　をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示します。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 　どい(鳥) ×どい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)